

## 1. はじめに

大潮の干潮時、西渚を調査。当日干潮は11:54で-2cm。沖に張られたのネット近くまで行って所々砂浜を熊手で掘って状態を調べた。相変わらず生物量は非常に少なかった。

## 2. 観察

岸から所々砂浜を掘りながら沖の方に移動していった。



沖の方に行くまで、小さな穴があちこちにあって、熊手で少し深く掘ってもなにも出てこなかった。専門家に聞いたらカニの穴ではないかのこと。沖の方に行ったとき、時々アサリやバカ貝の稚貝が見られた。

ネット際近くで、7cm程度のホンビノスと3cm程度のハマグリを各一個見つけた。ハマグリの上にはアサリ稚貝。

また海水がお湯のような状態になって弱っていたのか、小さなマテ貝が一つ表に飛び出していた。



小さい魚が見られた。ハゼにしてはスマートに見えるキスのように思えた。また1cmくらいのカニを見ることがあったが、あっという間に砂にもぐってしまい、写真も撮れなかった。

沖の方で、家族で潮干狩りに来ていた人の掘った物を撮影させてもらった。大きなハマグリが3~4個、シオフキなど。



## 3. 考察

海浜公園は家族の遊び場であるので干潟というより砂浜という方が存在価値があるように見える。その意味から、生物が少ない砂浜化することはいいかもしれない。ただ湾奥にあって波もそうきつくはないので二枚貝は生息できそうである。

現在、まれではあるが貝殻が厚い大小のハマグリやホンビノス貝がいる一方、アサリが殆どいないということは定着したときに足糸でつかまるものがなく、軽いため流されてしまうことによると考えられ、礫の多い渚にすれば貝類もけっこういる海浜公園にできると思われる。